

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2010・4 vol.403

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉

学部・共同研究部門移転を控えた近況と 今後の展望

学長 小川 彰



ついに、総合移転計画の第2次事業が動き出しました。矢巾の新キャンパス移転地区には第1次事業として完成した医学部、歯学部の1年生部分と新設薬学部（全学年分）の建物で運用されてきました。今般ついに、医学部、歯学部の基礎教育・研究部分と全学の共同研究部門が合流することになり、来春には矢巾校舎は現在の倍を超え、岩手医科大学の将来の姿の基本が出来上がる事になります。従って、この1年間は、将来の本学の骨格を確定させる時期にあたり、極めて重要な準備期間になります。

な、全国に総合大学は多くあります。しかし、各学部が有機的に連携した大学はなく、単科大

学の集合体での総合大学です。本学は、悲願の医学部・歯学部・薬学部を擁する医療系総合大学としての地位を確立しつつあります。この度の矢巾キャンパス新教育棟、研究棟、共同研究部門は、世界で初めてと言っても良い「新しいコンセプトのもと」で設計されています。すなわち、学部の枠を超えた、教育・研究施設として創られているということです。学部単位の教育実習棟・研究棟はなく、全て岩手医科大学の教育実習・研究棟であり、教育も研究も、将来は診療も医・歯・薬の学部を超え全学で取り組む構想になっています。すなわち、学部や講座の垣根を最小限にし、各学部、講座が枠組みを超えた連携教育・研究が出来るように設計されています。従って、学部ごとの施設は造らず、全てを連携して岩手医科大学の全体の施設として運用できる事を目指しています。

これらの教育と研究の学部と講座を超えた連携が完全に実践されれば、世界に冠たる新たなコンセプトの大学となることになり、大学のあり方の新しい方向性を世界に示すモデルケースとなることでしょう。

しかし、ハードとしての施設を造る事は比較的簡単ですが、それに「魂を吹き込む」ことは容易ではありません。各学部、講座、部門の教育職員と全ての職員が、従来の古い感覚を一掃して、



建設が進む総合移転整備計画第二次事業新築工事
(矢巾キャンパスモール屋上から西講義実習棟、西研究棟を撮影 撮影日：3月26日)

この新しい大学創設に一丸となって尽力して頂く事を願っております。

先 人が営々と築き上げてこられた岩手医科大学の長い歴史と伝統を生かしつつ、この新しいコンセプトの大学運用が合体することによって、世界に冠たる大学に昇華してゆく事を心から願っております。

岩手医科大学に奉職する全ての現職員「皆様」の責任は極めて重く、我々の意識改革こそが、本学にとって世紀の大事業である「総合移転整備計画」を成功させる最も重要な鍵であることを共通認識とし、将来の後輩のため岩手医科大学の発展に尽くすことこそ重要である事を強調したいと思います。

特集

定年を迎えられた教職員の皆様永い間ご苦勞様でした

本年3月31日付で定年を迎えられ退職された皆様には、永い間岩手医科大学発展のためにご尽力をいただき、大変ご苦勞様でした。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。

なお、定年を迎えられた4名の方々から、退職にあたっての感想が寄せられておりますのでご紹介いたします。

敬称略

- 6列目左から 本田芳起 高橋賢治郎 齋藤晴雄 大坪啓則
- 5列目左から 嶽間澤博 横田光正 高谷直伸 泉森薫
伊藤創造 塩山司 松本範雄 大澤得二
- 4列目左から 江刺家邦雄 野坂洋一郎 大坪眞智 石川由紀子
瀧野玉枝 堀切順子 小田代律子 尾関静子
須川淳子 久保田稔 岩泉千賀子
- 3列目左から 近藤留美子 谷藤留実子 村井順子 菊池有利子
滝澤ツギ子 三浦明子 野々宮百合子 伊東美恵子
菊池千佳子 吉田如子 土屋節子 田村幸子
- 2列目左から 藤原京子 長井百合子 工藤房子 西村千恵子
杉原千恵 吉田由江 石塚よき子 浅沼ゆみ子
宮川スエ 館野光子 相馬久子 米田久美子
喜多志津子
- 1列目左から 佐藤久伸 荒木吉馬 二井薬学部長 鈴木医学部長
大堀理事長 小川学長 三浦歯学部長 小林病院長
井上洋西 及川看護部長



感謝と安心

口腔機能構造学講座
口腔解剖学分野
教授 野坂洋一郎

今年は岩手山の巖鷲も早くも輪郭を現し、白鳥も北に帰るのが少し早くなっているようです。盛岡に来てから早いもので37年と少々が経とうとしています。私が盛岡に着任した昭和47年頃は、盛岡の駅前も寂しく、夜になると開運橋まで真っ暗な道でした。医療界は、各県一医科大学の掛け声で、医科大学、歯科大学の新設ラッシュの時でした。その為、全国の既存、新設を問わずに医科大学、歯科大学では解剖学の実習において、遺体不足が深刻な問題となり、解剖学会は医学教育の危機として、政府や議員に働きかけていました。

ここ岩手医科大学も医学部、歯学部の2つの学部学

生（200人）の教育に十分満足出来る環境が整えられない状況となり、夏休みには医学部、歯学部の解剖学四講座の教育職員と技術員、さらに学務課の皆さんにもお手伝い頂き、岩手・青森県内、秋田県と宮城県の一部にある、病院、施設、市役所、役場をくまなく廻り、医学教育の崩壊を招かないためにも協力を御願ひするキャンペーンを展開しました。この事態を救うために当時の医学部解剖学第一講座の浦良治教授を中心とした篤志献体の会を立ち上げることが絶対に必要であるとの全学的な合意と篠田紘理事長・学長の全面的な後押しにより推進し、会の名称を『白寿会』と決定し、昭和57年11月3日に発足し、一ノ関在住の佐藤正春氏が理事長に就任されました。その後、理事長、理事、会員の方々の努力と大学の多大な応援により団体としての安定と会員数も増加し、現在では解剖体に献体が占める割合は100%となり、解剖学教育の安定と医学倫理の涵養に多大な効果を来しています。このように解剖学教育の環境を完璧なまでに整備頂いた、白寿会会員と大学当局に感謝の気持ちで幕が引けるのを幸せに感じています。ありがとうございました。



事務局の飛躍を期して

事務局長 佐藤 久伸

昭和48年4月に事務職員に採用していただき、今年3月までの37年間事務局に勤務し、無事定年を迎えることが出来たのは、皆様方のご指導ご支援があつてのことと心から感謝申し上げます。

この間、岩手医科大学は大きく飛躍し、組織的に大

きく発展してきました。その中で平成5年の附属花巻温泉病院の開設、平成15年からの総合移転整備計画事業、平成19年の薬学部の開設など準備段階から業務に携わり、本学の発展に直に触れさせていただいたことが一番の思い出となっております。

平成17年4月大堀理事長先生から事務局長を拝命し、事務局の組織運営に全力を注いできたつもりですが、果たして職責を全うできたか、本学の発展に寄与できたか自問すると共に、今後も外から本学の発展に微力ながら貢献していきたいと考えております。

岩手医科大学のますますのご発展と事務局のより一層のご活躍を心からご祈念申し上げます。



定年退職を迎えるにあたり

中央放射線部
技師長 嶽間澤 博

安田講堂事件に代表される学園紛争にゆれる時代に3年間東京での学生生活を過ごした後、昭和46年4月より39年間診療放射線技師として従事し、このたび無事定年退職を迎えることができました。

この間の医療は目覚ましい進歩を遂げ、特に放射線部門では1895年にW.Cレントゲン博士によりX線が発見されて以来115年の歴史の中でも飛躍的に進歩した年代であったと思います。特にCT装置の発明は今日の放射線装置、機器の原点のように思います。当院に

はじめてCT装置が導入されたのは昭和52年で、その後MRIなどデジタル技術を駆使した装置が次々と導入されてまいりました。新しい装置が導入されるたびに技術者として胸がワクワクした事を昨日のように思い出します。

変わったのは装置・機器ばかりではありません。施設も東病棟と救急センター、循環器医療センター、花巻温泉病院などが増設され入職当時は20名たらずであった放射線技師も私以下62名の大所帯となりました。

平成16年に技師長の任を拝命し、大過なく今日を迎えることが出来るのも62名の技師の仲間と部長先生を始め関係各位の皆様のご支援、ご協力の賜物と心より感謝とお礼を申し上げます。

最後になりましたが岩手医科大学の益々の発展を念願いたしますとともに、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



育ててもらって37年

花巻温泉病院
総看護師長 杉原 千恵

学生時代、5年以上働いている看護婦を見て“よく働いてるなー”と他人事のように眺めていた自分が、実習病院で2年間勤務した後に岩手医科大学に入職し、定年退職の日を迎えるまで働くことが出来ました。

振り返ってみれば、救急センター開設準備に向けた川崎医大病院（1ヶ月）での研修と開設初日の準夜勤務、NICUの開設準備作業と勤務中の緊張感、看護教

員養成講習会（6ヶ月）での日々、看護管理者になってからは循環器医療センターの開設準備と管理業務、オーダリングの導入等に関わった時のことが鮮明に蘇ってきます。熱しやすく冷めやすい気性の私が、37年間働き続けられたのは大事業に関わらせていただき、緊張感を維持できたことに因ると思っています。

幼い頃より、突然の閃きで行動してしまう習癖があり、娘にも“お母さんは感だけで生きている”と言われていた私に、看護部は勿論、他部門の方々、上司、先輩や仲間達が我慢や忍耐をして下さったお陰と感謝しております。

単なる閃きが現実化する過程で、達成感を味わいながら勤務させていただいた岩手医科大学に対して心より御礼申し上げます。

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は3回目の御芳名紹介です。(平成21年12月24日～平成22年2月28日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等

<1,000,000円>

株式会社橋本印刷（盛岡市）
医療法人社団久佑会得地内科医院（北海道岩見沢市）
医療法人社団誠仁会三島内科医院（盛岡市）

<200,000円>

医療法人社団青空会大町病院（福島県南相馬市）

<100,000円>

医療法人仁医会（財団）釜石のぞみ病院（釜石市）

<御芳名のみ掲載>

財団法人片倉病院（宮城県大崎市）
医療法人あいん会（茨城県水戸市）
医療法人秀真会（北海道函館市）
医療法人日新堂八角病院（盛岡市）
医療法人友光会（宮崎県小林市）
富士通株式会社岩手支店（盛岡市）
（受付順、敬称略）

個人

<1,000,000円>

星 宏紀（医38）
金子 克（名誉教授）
鳥羽 義紀（医14）
岩手医科大学歯学部九期会
安西 芳朗（医11）
佐々木 信之（医14）

<500,000円>

小瀬川 玄（医34）
高橋 繁夫（医14）

<300,000円>

杉原 千恵（教職員）

<200,000円>

小岡 文志（医23）
神應 太朗（医56）

<100,000円>

杉山 晶規（教職員）
藤岡 知昭（教職員）
釜石 学（父母）
石川 精子（専18）

藤岡 則和（父母）
塚原 孝典（医58）
鬼澤 道夫（医50）
<御芳名のみ掲載>
村田 榮治（他78）
工藤 淳一（歯19）
国分 令子（医23）
猪又 義男（教職員）
赤坂 俊英（教職員）
赤坂 ルミ子（歯6）
赤坂 俊太郎（医51）
赤坂 理三郎（医53）
赤坂 季代美（医50）
後藤 康文（医11）
本橋 弘行（医7）
柳沢 茂人（教職員）
上原 至雅（教職員）
平川 順一（父母）
近田 龍一郎（他103）
菊池 哲（父母）

大沢 久人（名誉教授）
高橋 和宏（教職員）
田澤 豊（名誉教授）
秋山 勇美（父母）
石崎 明（教職員）
小西 和朗（父母）
佐藤 慧（医7）
王 挺（教職員）
白石 博久（教職員）
小守林 靖一（医51）
鈴木 チヨ（元職員）
伊藤 文男（父母）
（受付順、敬称略）

これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭 陵 会	245	114,035,000
在 学 生 ご 父 母	124	55,690,000
役員・名誉教授	19	11,610,000
教 職 員	62	7,121,888
在 学 生	1	100,000
一 般	46	42,990,000
合 計	497	231,546,888

（平成22年2月28日現在）



外科外来
乳がん看護認定看護師

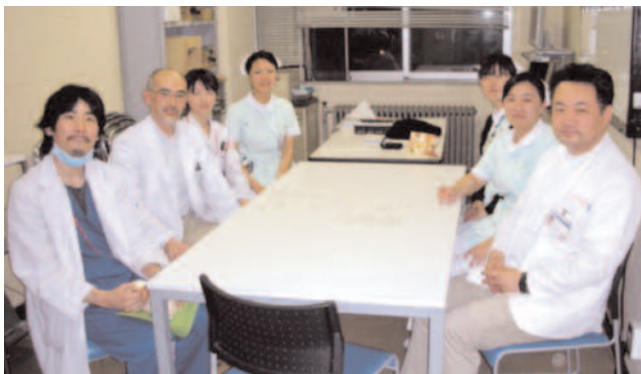
三浦 穂

乳がんを取り巻く現状

乳がんは、年間で約40,000人が罹患し、女性のがんの第一位となっています。特徴として、壮年期の罹患が多い・ボディイメージの変容をきたす・治療が多く自己決定を行わなければならない・治療の経過が長いなどが挙げられ、乳がん看護認定看護師には身体面・精神面・社会面とトータルなケアが求められています。

乳がん患者さんへのケア

私は、平成20年に乳がん看護認定看護師の資格を取得しました。現在は、西4階病棟で活動しており、スタッフとともに、手術・化学療法・再発患者さんのケアを行っています。乳房喪失や脱毛に伴うボディイメージ変容・治療選択などに不安を抱える患者さんも多く、短い入院日数のなかで患者さんの抱える問題を把



右列2人目が筆者

握しケアを行い、少しでも不安が緩和できるよう支援しています。また、再発患者さんには症状緩和や希望する療養環境が得られるよう、がん関連の認定看護師とも協働し支援しています。

院内外での活動

病棟では、医師・薬剤師・看護師のチームで週に一度ミーティングと患者さんのラウンドをしています。ミーティングでは看護師が、患者さんの思いや抱える問題を提示し意見交換を行い、また治療方針の把握を行うことで個別的なケアの実践に活かしています。平成21年7月からは、週に一度外来患者さんのケアと、月に一度がん患者・家族サロンのよろず相談を担当しています。

外来では、リンパ浮腫・治療と仕事との両立など生活に密着した様々な不安や問題を抱えている患者さんも多く、外来看護の重要性も感じております。また、院内のがん看護の質向上を目指し、緩和ケア認定看護師・がん化学療法認定看護師・がん性疼痛認定看護師と協働し、「がん看護セミナー」を企画・運営しています。

院外では、岩手県看護協会や多施設での乳がんに関する講師を務め、微力ながら岩手県内の乳がん看護の質向上に貢献できるよう努めています。

これからは、乳がん患者さんはもちろん、多くの不安や問題を抱えるがん患者さん・ご家族のサポートを行っていきたいと考えています。

(平成22年4月1日より外科外来で活動しています。)

省エネ推進委員会だより ~国が推進している省エネ対策について~

太陽光発電買取制度

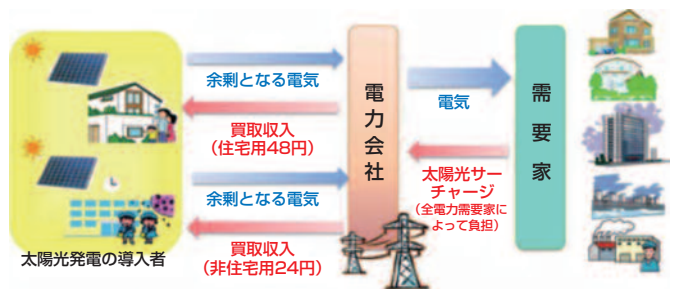
皆さんは、平成21年11月から太陽光発電の新たな買取制度がスタートしたことをご存知ですか。これは、家庭や学校、企業等で太陽光発電を導入しているところから、太陽光発電で作られた電力のうち余剰電力を買取の制度です。政府は買取制度を導入することで、太陽光発電の導入拡大を目指し、地球温暖化対策・省エネ対策の推進を目的としています。

なお、この余剰電力の買取費用は、電力使用者全員で負担することになり一般家庭で百円未満となるようです。

太陽光発電の導入費用

一般家庭用太陽光発電の導入費用は、経済産業省の調査によると標準的な発電出力(3.5Kw)のシステムで新築住宅で約185万円、既築住宅では約225万円程かかるようです。但し、導入時には1Kw当たり7万円程度の補助が国から出るほか、自治体の補助等もあり新築住宅で10年、既築では15年程で導入コストを回収できるようです。

太陽光発電 余剰電力買取の流れ



最終講義が行われる

本年3月31日付をもって定年退職された教授の最終講義が、3月1日(月)本学講堂(歯学部4階)で行われました。講義は本学教職員をはじめ、在学生や卒業生など関係者多数が聴講しました。

各教授ともスライドや在職中のエピソードなどを交えて熱心に講義され、聴講者は名残惜しそうに耳を傾けていました。講義終了後は、各教授に学生等から花束が贈呈され、惜しめない拍手が送られました。

診断・治療に直結する
口腔領域の微小循環



野坂 洋一郎 教授
(口腔機能構造学講座口腔解剖学分野)

外傷歯の保存治療



久保田 稔 教授
(口腔機能保存学講座歯内療法学分野)
(総合歯科学講座保存修復学分野)

歯科理工学の基本と考え方



荒木 吉馬 教授
(口腔病因病態制御学講座
歯科医療工学分野)

肺がんの診断・治療の進歩、
医療安全と医師の人權



井上 洋西 教授
(内科学講座 呼吸器・アレルギー・
膠原病内科分野)

小児科病棟に絵本が寄贈される

平成22年3月8日(月)、JR東日本グループの「株式会社ジャスター(吉田一郎社長)」様から、闘病中の子供たちを励ますために、54冊の絵本が寄贈されました。

同社は、オリジナルかもめの王子「フーフー王子」を販売し、その売上金の一部を絵本の購入にあてるチャリティー企画を実施。当院の他に、青森市内の病院にも寄贈される予定です。寄贈された絵本は、小児科病棟(西5A)プレールームに置いて利用されます。

ここに「株式会社ジャスター」様には、心から御礼申し上げます。



(左から)千田小児科学講座教授、小林病院長、ジャスター小田中盛岡営業所長

医学部白衣授与式の挙行



本年度から附属病院で臨床実習が始まる医学部の新5年生を対象にした「白衣授与式」が、3月31日(水)午後3時から創立60周年記念館9階第2番講義室で行なわれました。

授与式では、学長、医学部長、病院長及び医学部教員出席の下で、学生74名に白衣が授与され、学生代表として鈴木利央登(すずきりおと)さんが「誠の人間たるべく努力することを誓います」と宣誓を行ないました。

これから臨床の場に第一歩を踏み出す学生に、大きな期待が寄せられます。

平成21年度卒業式を厳かに挙行

平成21年度岩手医科大学の卒業式は、3月11日(木)午前10時から岩手県民会館大ホールにおいて行われ、本法人役員や教職員、多数のご父兄が出席されました。本年度の卒業生は、大学院医学研究科博士課程21名、医学研究科修士課程5名、歯学研究科博士課程10名、医学部78名、歯学部54名でした。

岩手医科大学歯科技工専門学校の卒業式は、3月6日(土)午前11時から歯学部4階講堂で行われ、卒業生21名を送りだしました。

また、岩手医科大学歯科衛生専門学校の卒業式は、3月12日(金)午前10時から同校4階講堂にて行われ、卒業生47名が学舎を後にしました。



岩手医科大学



岩手医科大学歯科技工専門学校



岩手医科大学歯科衛生専門学校

理事会報告

■ 1月定例（1月25日開催）

- 任期満了に伴う歯学部長の選任について
三浦 廣行（歯学部口腔保健育成学講座（歯科矯正学分野）教授）
任期：平成22年4月1日から平成25年3月31日まで（3年間）
- 任期満了に伴う薬学部長の選任について
二井 將光（薬学部機能生化学講座教授）
任期：平成22年4月1日から平成25年3月31日まで（3年間）
- 任期満了に伴う高度救命救急センター長の選任について
遠藤 重厚（医学部救急医学講座教授）
任期：平成22年4月1日から平成25年3月31日まで（3年間）
- 任期満了に伴う岩手医科大学歯科技工専門学校長及び岩手医科大学歯科衛生専門学校長の選任について
三浦 廣行（歯学部口腔保健育成学講座（歯科矯正学分野）教授）
任期：平成22年4月1日から平成23年3月31日まで（1年間）
- 教職員の人事について
歯学部歯科補綴学講座（有床義歯補綴学分野）
准教授 古屋 純一（前 講師）（平成22年4月1日付）
- 事務局長の選任について
高橋 俊雄（前 学務部長）（平成22年4月1日付）
- 共通教育センター組織及び運営の一部改正について
教養教育専任教員の位置づけを明確にするため、委員会部分と教養教育組織部分を分離し、本学の特徴である医療系3学部の連携、特に教養・準備教育、3学部の横断的教育などを企画・検討する学生教育に特化した組織を設置することとした。
- 健康管理センター組織規程の一部改正について
健康管理センターに健康管理センター事務室を設置する。
<改正理由>
・学生数及び職員数増加に伴う健康管理センターの業務量拡大へ対応するため
・健康管理センターと事務部門との連携を強化するため
（施行年月日 平成22年4月1日）
- 中央診療部門組織規程の一部改正について
中央診療部門の各部及びセンターの規模の拡大に対応するため主任をおくことが出来るとし、第30条第5項を「主任は各部長、センター長、副部長、室長、技師長及び副技師長の業務を補佐する。」に文言修正した。
（施行年月日 平成22年4月1日）
- キャリア支援センター設置に伴う組織規程の一部改正及びキャリア支援センター規程の制定について

補助事業としての可能性を視野に入れ、キャリア支援センター組織を薬学部限定せず全学的な組織とするため、キャリア支援センター規程第3条の第4号を「医学部・歯学部教授会から選出された教員各2名」に文言修正した。

（施行年月日 平成22年4月1日）

■ 2月定例（2月23日開催）

- 名誉教授の称号授与について
野坂 洋一郎（前 歯学部口腔解剖学講座（口腔解剖学分野）教授）
久保田 稔（前 口腔機能保存学講座（歯内療法学分野）教授）
（平成22年4月1日付）
- 図書館分館長の選任について
図書館分館長 上原 至雅（薬学部微生物薬品創薬学講座教授）
任期：平成22年4月1日から平成23年3月31日まで（1年間）
- 教職員の人事について
歯学部歯科補綴学講座（冠橋義歯補綴学分野）
嘱託教授 塩山 司
（前 歯学部歯科補綴学講座（冠橋義歯補綴学分野）准教授）
歯学部口腔外科学講座（顎口腔外科学分野）
嘱託教授 横田 光正
（前 歯学部口腔外科学講座（顎口腔外科学分野）准教授）
（平成22年3月1日付）
医学部内科学講座（消化器・肝臓内科学分野）
嘱託教授 滝川 康裕
（前 医学部内科学講座（消化器・肝臓内科学分野）准教授）
（平成22年4月1日付）
- 内部監査室長の選任について
内部監査室長 福島 寛志（前 岩手県保健福祉部副部長）
（平成22年4月1日付）
- 一般職員の人事について
- 平成22年度一般寄付の募集について
- 就業規則の一部改正について
- 組織規程（障害者歯科診療センター）の一部改正について
歯科診療部門に位置付けられている障害者歯科診療センターを実態に即し、障害者歯科として歯科診療科に位置付けることとした。
- 教育職員の定員及び関連規程の一部改正について
- 内部監査規程、公益通報保護規程の制定及び組織規程等関連規程の一部改正について

学位授与

●医学研究科（博士）

授与番号	氏名	博士論文名	授与年月日
甲第1474号	宮本 章 弘	乳房外 Paget 病における HER2 および TUBB3 蛋白質発現に関する免疫組織学的研究	平成22年 3月11日
甲第1475号	柿坂 啓 介	マウス肝幹/前駆細胞の生存に対する急性肝不全患者血漿の影響に関する研究	〃
甲第1476号	高橋 徹	TNF- α 遺伝子-C-857T 多型はスタチンの LDL コレステロール低下作用に抵抗性である	〃
甲第1477号	菊池 哲	ALI/ARDS 発症早期の HMGB1 値と予後との検討	〃
甲第1478号	大竹 伸 平	成長因子によるギセリン発現の制御	〃
甲第1479号	村岡 聡 介	乳房外パジェット病における histone deacetylase 6 の発現に関する免疫組織学的研究	〃
甲第1480号	池田 真 妃	子宮内膜腺癌における γ H2AX を用いた DNA 障害の検討	〃
甲第1481号	小野寺 美 緒	急性肝障害における肝細胞アポトーシスおよびネクローシスの臨床的判別と評価に関する研究	〃
甲第1482号	麻生 謙 太	術前 acetazolamide 反応性の程度は頸動脈内膜剥離術中の微小血栓による脳虚血の出現を予知し得る	〃
甲第1483号	工藤 薫	自殺企圖の転帰に関する研究：「精神科病棟入院群」、「救急センター入院群」、「非入院群」の特質について	〃
甲第1484号	玉田 真希子	LDL-コレステロール/HDL-コレステロール比は動脈硬化症を早期から反映し得る脂質指標である	〃
甲第1485号	玉田 邦 房	緑内障における局所網膜電図の PhNR 振幅と局所網膜ニューロン障害との関係	〃
甲第1486号	及川 伸 也	関節リウマチ滑膜における Bv8 の発現	〃
甲第1487号	三又 義 訓	関節リウマチ患者由来の線維芽細胞様滑膜細胞に対する IL-6 刺激による蛋白分解酵素 ADAMTS-4 と ADAMTS-5 の発現の変化の解析	〃
甲第1488号	高取 恵里子	DNA 損傷修復マーカーを用いた卵巣明細胞腺癌に対する抗癌剤の細胞効果の検討	〃
甲第1489号	長澤 幹	チアゾリジン誘導体による糖尿病患者の肝臓内中性脂肪量減少と血中アディポネクチン増加の関係	〃
甲第1490号	鳴海 新 介	ラディアルスキャン併用 MR プラークイメージング T1 強調画像における繰返時間によるプラーク信号の変化	〃
甲第1491号	森 潔 史	3次元超音波検査法を用いた頸動脈プラークに対するフルバスタチンの治療効果	〃
甲第1492号	紺野 可奈子	パーキンソン病における黒質および青斑核の神経メラニンイメージングの検討	〃
甲第1493号	荻野 和 仁	脊髄前角ニューロンの形態学的解析と複合筋電図によるラット副神経僧帽筋枝-肩甲上神経移動術の評価	〃
甲第1494号	佐久間 雅 文	地域住民の慢性腎臓病における血中 B 型ナトリウム利尿ペプチド濃度と心血管事故と関連性	〃
乙第711号	佐藤 光太郎	ラット Plasma hyaluronan binding protein のクローニングと発現の検討	平成22年 3月 4日
乙第712号	村井 一 範	岩手県における慢性骨髄性白血病に対するイマチニブ療法の現状と問題点	〃
乙第713号	高橋 正 統	消化器癌悪液質患者でのグレリンとレプチンの動態	〃

●医学研究科（修士）

授与番号	氏名	修士論文名	授与年月日
修第18号	煙山 信 夫	職域における睡眠薬服用に関する実態調査	平成22年 3月11日
修第19号	伊藤 記 彦	Echo-Dynamography法を用いた僧帽弁形成術前後の左室内腔血流動態評価	〃
修第20号	米澤 裕 司	タキサン系抗がん剤の殺細胞効果に対する nucleus accumbens associated 1 (NACC1) 発現抑制の影響	〃
修第21号	佐藤 葉 子	0.5%クロルヘキシジン含有アルコール製剤を用いた Waterless 手術時手指消毒法の実践的検討	〃
修第22号	松岡 真紀子	肺換気不均一による喀痰吸引評価 多導出心電信号の解析による換気分布に関する研究	〃

●歯学研究科（博士）

授与番号	氏名	博士論文名	授与年月日
甲第248号	石河 太 知	分泌型白血球プロテアーゼインヒビターによる歯肉上皮細胞の Porphyromonas gingivalis 感染制御	平成22年 3月 4日
甲第249号	近藤 貴 之	下顎大白歯欠損における小白歯部歯周組織の応力と歪みの分析：患者個別有限要素モデルを用いた研究	平成22年 3月11日
甲第250号	梶内 圭 子	糖尿病患者の呼気中アセトン濃度、口中気体の揮発性硫黄化合物濃度および歯周病有病状態に関する研究	〃
甲第251号	伊東 俊太郎	Streptococcus intermedius の硫化水素産生酵素 β -C-S lyase の分子生物学的解析	〃
甲第252号	安藤 禎 紀	ヒト遊離歯肉口腔上皮下リンパ管構築	〃
甲第253号	村上 加 奈	塩酸テクスメトミジンによる静脈内鎮静法が聴覚性記憶に及ぼす影響	〃
甲第254号	小川 さおり	プロポフォールによる静脈内鎮静法時の健忘効果からの回復-視覚性記憶課題負荷による検討	〃
甲第255号	菊地 静一郎	擬似液体中における陽極酸化・水熱処理チタンの表面解析	〃
甲第256号	横山 典 子	歯冠形態製作のための CAD/CAM 用セラミックブロックの色彩学的検討	〃
甲第257号	渡邊 明	咀嚼筋痛を伴う日中クレンジング習癖者に対する EMG バイオフィードバック訓練の効果	〃
甲第258号	山谷 元 氣	Air-liquid interface 培養下の口腔粘膜上皮に及ぼす TNF- α の角化亢進作用	〃
乙第113号	大久保 卓 也	加熱重合型義歯床用レジンと常温重合型リラインレジンとの接着強さにおよぼすメチルメルカプタンの影響	平成22年 3月 4日
乙第114号	古玉 芳 豊	Streptococcus anginosus の粘膜上皮細胞への附着機構	〃



薬物代謝動態学講座

薬物代謝動態学講座は、小澤正吾教授、幅野渉准教授、蒲生俊恵助教、寺島潤助教の4名で構成されています。薬物代謝動態学をテレビ番組のように10文字で表現するなら、「薬の患部への届き方」でしょうか。当講座は厚生労働省認可の医薬品以外にも、いわゆるサプリメントから残留農薬まで体に入りうるもの全てを扱います。「物質を届かせる」ために、届きやすい形にする、取り入れる、体に好ましくないものを排除する、「関所タンパク質」が重要です。これらタンパク質の量、質ともにみられる個人差の原因の一部は遺伝的背景に基づくため個別化薬物療法の根拠となります。関所で働くタンパク質はお役目に忠実、融通が利かず、安宅の関で勸進帳は通用せぬように思えますが、依然として、全容は関守、足輕級ま

でわからないことだらけです。これら難しい課題を自覚、そして克服する基礎的研究を通じて医療に役立てるよう邁進いたします。

(小澤、幅野、蒲生、寺島)



看護部(東7階)

泌尿器科病棟は、高齢化社会により泌尿器癌や慢性腎臓病(CKD)を抱える患者さんが増加し、患者さんのニーズも多様化、複雑化してきています。根治性とQOL(生活の質)を高めることを理念とする藤岡知昭教授の下で、医師と協働し、

患者さんに安全、安楽で良質な看護が提供できるように、看護師27名と看護補助1名のスタッフが日々努力し看護を行っています。

2005年東北で最初に導入された前立腺密封小線源療法は400件に達し、低侵襲の治療が患者さんに好評を得ています。最近では、膀胱癌に対する腫瘍特異的ワクチン療法がメディアで報道されてから、遠方から「治療の光」を求めて入院する患者さんも増え、緩和ケアチームとの連携やスピリチュアルで患者さんの心に寄り添う細やかな配慮の看護が必要とされています。現在、ウロストーマ患者さんのセルフケアの相談窓口としてストーマ外来を設け、病棟看護師が担当し、皮膚・排泄ケア認定看護師と協力しながら継続看護に努めています。

～「よく見る」「よく聴く」「感じる心」を大切に～

(主任看護師 木川美代子)



— 大学報原稿募集 —

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、作品(写真、俳句、絵画など)、サークル紹介、また「私たちはこんなことを頑張っている」などのアピールをどしどしお寄せください(原

稿字数はご相談ください)。

また、特集してほしいテーマや、各コーナー(「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など)への掲載依頼などもお待ちしております。

連絡先 大学報編集委員会事務局(企画部企画課)
内線7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

笑い療法士3級

歯学部口腔機能構造学講座
口腔組織学分野

臨時技術員 中村佳子

平成22年2月14日、第6回笑い療法士3級の認定を受けました。今年は1,000通を超える応募の中から、74名が認定されました。岩手からは2名の選出でしたが、もう1名の方が偶然にも眼科学講座の金子宗義先生でした。これで本学の笑い療法士は3名になりました。この調子が増えていけば、これから本学の病院はより一層明るくなっていくのではないのでしょうか。笑い療法士の定義、資格区分、心構え等は以前この学報で紹介されていますので、詳細を知りたい方は「癒しの環境研究会」HP (<http://www.jshe.gr.jp/>) へアクセスしてみてください。

私の笑い療法士としての初仕事は数日後にやってきました。がんの治療方法を決める友人の診療に立ち会う事になったのです。

先生の熱心な説明が始まり、時折、泣き出しそうに



なる友人に、私はただひたすら寄り添いました。話も終盤にさしかかった頃、私のお腹が突然小さくなんとも間抜けな感じに鳴ったのです。聞き取れるか聞き取れないかの音でしたが、友人は気がついて「お腹減ったでしょ、大丈夫？」と微笑みながら声をかけてくれました。さっきとは表情が全然違います。もしかしたら数秒でも友人の気を紛らせる事が出来たのではないのでしょうか。笑い療法士とは「患者さんを尊敬し、患者さんの心に寄り添って、笑いを感染させる人」なのです。帰宅後、友人から届いたメールです。「今日はありがとう。辛いはずなのに佳子ちゃんが居てくれて助かったよ。しかし、あのお腹の音には参った(´v´)」私は嬉しくなり、自分のお腹に「がんばったね！」と声をかけました。私の笑い療法士としての初めの一歩はお腹を鳴らした事となりました。これからも認定を受けた感動が新鮮なうちに、精力的に活動して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



第72回大学報編集委員会

日 時：平成22年4月15日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：大堀委員長、山崎、影山、藤本、佐藤、小山、佐々木(志)、佐々木(光)、及川、千葉、佐々木(忠)、中島、岩動、武藤

欠席委員：松政、齋野、千田、佐々木(さ)、野里

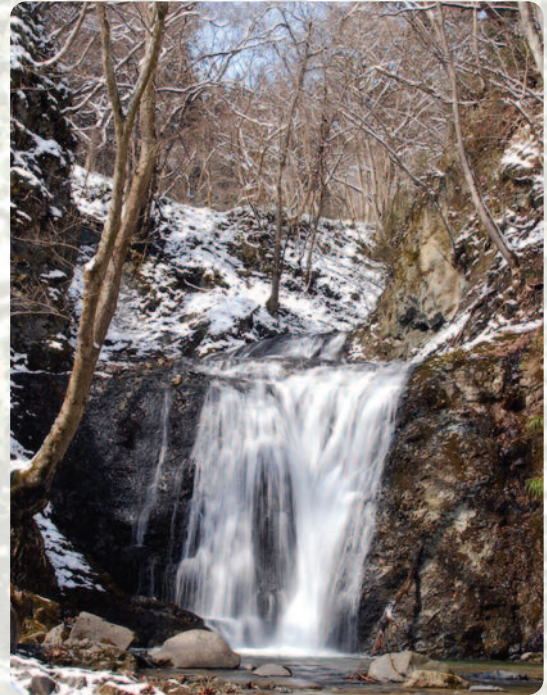
矢巾町の自然散策めぐり

今回は矢巾キャンパス西方に鎮座する南昌山（標高848m）の東昇り口（矢巾温泉郷隣）に森の精が現れそうな早春の“幣懸（ぬさかけ）の滝”と“馬蹄石（ばていせき）”をご紹介します。

ぬさ かけ 幣 懸 の 滝 ～心の滝行はいかがでしょうか～

“幣懸の滝”の由来は昔、マタギが猿の安全を願って、山の神に幣（ヌサ）と呼ばれる札を奉納したことから名付けられました。

春の新緑、夏は小川のせせらぎ、秋には紅葉狩りができます。森林浴遊歩道もあります。心の滝行はいかがでしょうか？



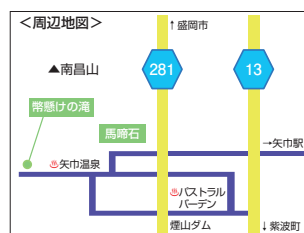
ば てい せき 馬 蹄 石 ～故きを温ねて新しきを知る～

“馬蹄石”の由来は、騎馬を休ませた際、岩石に蹄の跡が残っているという全国的に広く残っている伝説です。この南昌病院近くにある“馬蹄石”は後三年の役に武勲を挙げた平安時代後期の武将、源 義家（1039年～1106年）の愛馬がつけた跡といわれています。

「故きを温ねて新しきを知る」お近くへお出掛けの際、是非、お立ち寄り下さい。

当日は天候に恵まれ、気分爽快の散策めぐりでした。撮影部隊のスナップ写真は、左から企画課吉田さん、小笠原さん、体育学分野小山、画像情報センター技師長の中島さんです。皆様、ご苦労様でした。

〈編集委員：小山・撮影日：3月26日(金)〉



編集後記



昨年4月より編集委員となり2回目の担当ですが、皆さんに助けられてばかりです。大学報ならではの新しい情報提供が出来ないか思案中です。今回から大学報創刊当初の月報に戻ることになりました。記念すべき403号がお手元に届く頃、桜前線はどのあたりでしょうか？桜のにぎわいで日頃の疲れをリフレッシュしましょう。

（編集委員 佐々木 さき子）

岩手医科大学報 第403号

発行年月日 平成22年4月28日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷

河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp